

課題：飼料用米・大豆による水田農業の確立

ねらい

平成22年度から、飼料用米での転作に8万円が交付されることとなり、湿田地帯の生産者や大規模な稲作農家であっても生産調整に参加しやすい状況となりました。

この飼料用米に対する支援策や、更には畑地化が可能な地域においては大豆への支援策を有効に活用し、米価が低迷している中でも安定的に水田農業を継続できる仕組みを構築します。

活動地域・対象

県内全域（稲作農家）

普及活動の目標

- 1 省力低コスト栽培技術の普及することによって、新規需要米（飼料用米）の作付を推進する。（飼料用米出荷数量1, 200 t）
- 2 コンバインを利用した大豆栽培を推進する。（70ha）

目標に向けた活動概要

- 1 鉄コーティング直播実証展示ほの設置
- 2 // 現地検討会・講習会の開催
- 3 大豆栽培に係る現地指導



鉄コーティング 播種現地検討会



生育状況



コンバイン（大豆現地指導）



大豆の生育状況

普及活動の成果

- 1 飼料用米（鉄コーティング直播）
 - 1) 実証ほ（4カ所）における調査結果
 - ・ 1カ所で移植栽培と同等の収量や品質が認められました。
 - ・ 3カ所で苗立不良と雑草が残ったことから収量が低く、評価が悪かった。
 - 2) 翌年度の「鉄コーティング直播」実施予定者へパンフレットを配布
 - ・ はじめての鉄コーティング実践時に失敗しないようチェックリストで確認
 - ・ ほ場毎の栽培状況をメモし、翌年度の参考として活用
 - 3) 飼料用米の取組状況

平成19年度の0haから、24年度には362ha、推定出荷量1,500tまで拡大しましたが、本年度は「備蓄米」の方が経営的に有利になったことから、飼料用米は大幅に備蓄米に切り替わり、101ha（概算）、推定出荷量420tまで減少しました。
- 2 大豆コンバインを利用した大豆栽培面積の状況
 - ・ 32haで前年度（34ha）とほぼ変わっていません。
 - ・ 連作により除草剤の効果の低いホオズキ類、アサガオ類がほ場に侵入し、大豆が減収しています。

今後の発展方向

- 1 飼料用米（鉄コーティング播種）
 - 1) 多収性専用品種の導入

25年12月、ジャポニカ種「あきだわら」が多収性専用品種の知事特認品種として認定されました。これまでのインディカ米に比べ、取り組みやすいため、生育特性を把握するとともに、作付拡大を図ります。
 - 2) 鉄コーティング直播栽培技術の確立

普及段階の技術ではあるが、失敗することもあるため、配布した「パンフレット」を活用し、実践する農業者が成功事例を積み重ねていけるよう導きます。
- 2 コンバインを利用した大豆栽培の推進
 - ・ 予防的な雑草対策の周知徹底（大豆畑への侵入をゆるさない）
 - ・ コンバイン収穫に適した品種導入のための情報収集及び展示ほ設置
 - ・ 輪作体系を組めない地域での大豆の連作障害対策

関係者からの声

- ・ 鉄コーティング直播を導入し、省力・低コスト化を図りたい。（農業者）
- ・ 収量が多く、ジャポニカ種で作りやすい飼料用米を導入し経営の安定を図りたい。
- ・ コンバイン収穫に適した大豆品種がほしい。

農林水産総合技術支援センター高度技術支援課

連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel：088-674-1922